

かめづか 亀塚遺跡

2016年12月17日

地元説明会資料

(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
(株) アート



桜井神社(式内社)



中狭間遺跡



人面文土器出土地点



亀塚墓地(古墳?)



獅子塚古墳



亀塚遺跡の全体写真 (遺跡の東方から)

亀塚遺跡とは？

現在調査を進めています亀塚遺跡は、JR 東海道新幹線と市内を南北に流れる鹿乗川が交わる辺りから南へ約 500m にひろがる水田地帯にあります。

亀塚遺跡は安城市教育委員会による 3 回の調査がおこなわれています。調査成果から弥生時代終末期 (約 1800 年前) を中心とする遺跡とされています。

なかでも、2016 年 8 月 17 日、国の重要文化財に指定された「人面文壺形土器」は全国的に珍しい出土品です。入れ墨のある人の顔が、壺の中央に描かれています。人面文壺形土器を含む線刻された土器は、亀塚遺跡は 21 点、鹿乗川流域遺跡群全体では約 50 点知られています。これら線刻された土器は弥生時代後期から終末期の土器で、県内では最も多い遺跡のひとつとして注目されています。

考古学フォーラム2014より改変
縮尺 1:20,000

亀塚遺跡と周辺遺跡地図



今回の調査成果

今回の調査は、江戸時代を中心とする遺構が見つっています。細長い溝が集中する所は畑跡と考えられます。大きな穴は湧水層まで掘り込んだ野井戸の可能性があり。そのほか、小さな穴が並ぶ所は稲束などを干す稲架(はさ・はぎ)と考えられます。これらの遺構は、調査区の北東と南西で見つかった江戸時代以降の川跡に挟まれた場所で営まれた耕作地の一部です。

今回の調査では人面文土器の発見にはいたりませんでした。過去の試掘調査では、隣接地から人面文の土器と同じ頃の土器が見つっています。今後期待したいところです。

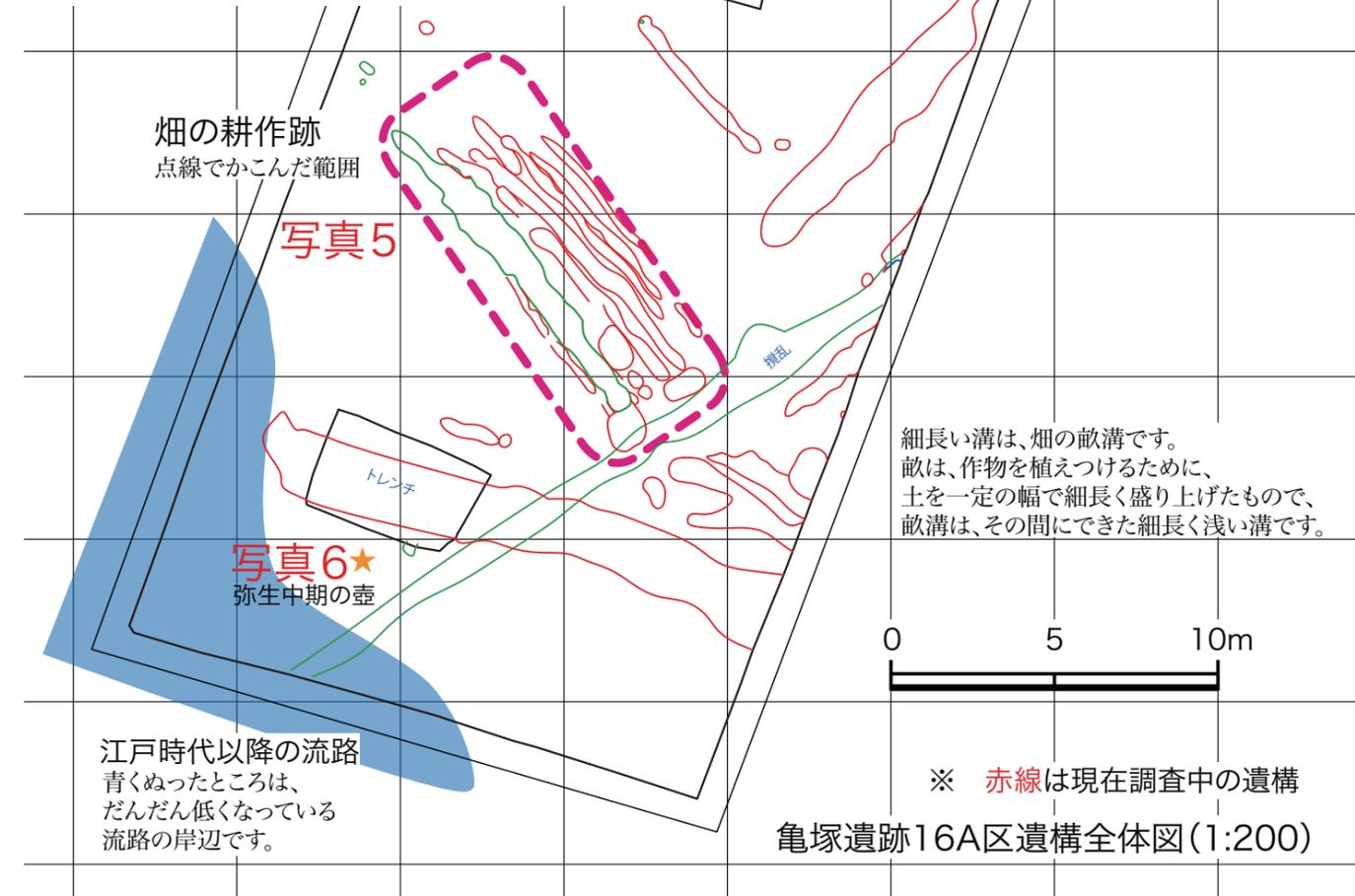


写真1 稲架?の柱列



写真2 江戸時代以降の流路



写真3 野井戸?



写真4 畑の耕作跡



写真5 畑の耕作跡



写真7 範囲確認調査時出土の土器
(弥生時代終末期～古墳時代初頭：1800年前)



写真6 貝田町式細頸壺
(弥生時代中期末：2000年前)